

いのち
生命のにぎわいとつながり

No.86

令和7年6月

特定外来生物とは、生態系に悪影響を与えたり、人の生命・身体、農林水産業に被害を与える、またはそのおそれのある外来生物について、外来生物法において指定されたものです。このたび、千葉県内において、新たな特定外来生物が確認されました。それはクビアカツヤカミキリというカミキリムシです。

県内初確認の特定外来生物
「クビアカツヤカミキリ」について



クビアカツヤカミキリの成虫（県外で撮影）

街路樹のサクラやウメ、モモ等の果樹に被害をもたらすクビアカツヤカミキリ（特定外来生物）が令和6年10月に、柏市内のサクラの木で初めて確認されました。確認されたのはクビアカツヤカミキリのフラス（幼虫の痕跡）と幼虫であったため、本種が県内に侵入し産卵していた可能性が高いことが分かりました。詳しい侵入経路は不明ですが、今後は県内で分布が広がる可能性が考えられます。

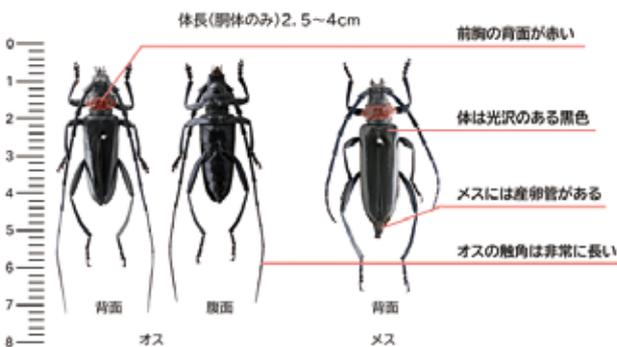
CONTENTS

- 1 県内初確認の特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」について 1
- 2 生命のにぎわい調査フォーラムを開催しました 3
- 3 みんなでつくろう！ちば外来水生植物マップ 3
- 4 カミツキガメ防除実施計画を改定しました 4
- 5 千葉県の希少種（アカハライモリ） 4

◎クビアカツヤカミキリとは

クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*) は中国、朝鮮半島、ベトナムなどが原産のカミキリムシです。平成30年1月に特定外来生物に指定され、飼養、保管、運搬、輸入、野外への放出が原則禁止されています。

成虫の体長は2.5cm～4cm程度で、体全体は光沢のある黒色です。また、前胸の背面が赤く両側に一对の突起があります。オスはメスに比べて触角が長いのが特徴です。



クビアカツヤカミキリ成虫 左：オス 右：メス
(提供：千葉県立中央博物館)

◎生態

クビアカツヤカミキリは国内では主にバラ科樹木(サクラ、ウメ、スモモ等)に寄生し、幼虫が樹木の内部を摂食します。その際、木屑(きくず)と幼虫の糞が交じった「フラス」と呼ばれる屑(くず)を排出するのが特徴です。フラスは他のカミキリ等も排出しますが、クビアカツヤカミキリの場合はフラスの量が多く、うどん状の連なった形が特徴です。このフラスは5～9月頃に盛んに排出されます。



クビアカツヤカミキリのフラス (県外で撮影)

幼虫は樹木内で主に2～3年かけて成長したのち蛹となり、国内の発生地では6月中旬～8月上旬頃に成虫となって樹木の外に脱出します。クビアカツヤカミキリは脱出直後から交尾することができます。また、産卵数が他のカミキリに比べて非常に多いこと

から繁殖力が強いのが特徴です。脱出した成虫の寿命は野外では1ヶ月程度です。成虫は越冬しないため冬場は見ることはできません。

◎樹木の被害について

クビアカツヤカミキリに加害された樹木は内部を摂食され衰弱し、枯死する被害が確認されています。

この他にも、被害木の落枝、倒木や在来のカミキリとの競合等の被害も考えられます。

国内では主にバラ科樹木に寄生するため、公園や街路樹のサクラ、ウメ、モモ等の果樹で被害が確認されています。県内で収穫量の多いナシやビワもバラ科樹木ですが、被害は今のところ確認されていません。しかし、今後、被害が発生する可能性もゼロではないため注意が必要です。

◎クビアカツヤカミキリを発見したときは

本種と思われるカミキリムシ(死体を含む)や痕跡(フラス)を発見した場合は、速やかに生物多様性センターまたは地元自治体窓口へ通報をお願いします。

また、クビアカツヤカミキリに寄生された木にはフラスと成虫が脱出した穴が見られる場合があります。



クビアカツヤカミキリの脱出口(左)とフラス(右)
(提供：埼玉県環境科学国際センター)

通報の際には、①発見した日時と場所、②発見時の状況(フラスが出ている、成虫がいた等)をお伝えいただき、可能なら成虫またはフラスの写真撮影をお願いします。成虫を捕まえた場合は、踏みつぶす、叩くなどにより必ずその場で駆除してください。クビアカツヤカミキリは特定外来生物のため、生きた状態での持ち運びが禁止されています。

被害を防ぐためにも早期発見、防除が重要です。県内で大量のフラスや成虫を見かけた際には、生物多様性センターまで情報をお寄せください。よろしくをお願いします。

(佐藤 哲也 千葉県生物多様性センター)

**生命のにぎわい調査フォーラムを開催しました
令和7年3月8日(土)**

生命のにぎわい調査団は令和7年3月末で設立から16年8ヶ月が経過し、団員数は約1,850名、報告件数は152,282件を超えました。

令和7年3月8日(土)に、中央博物館講堂で調査フォーラムを開催し、57名(団員と同伴者48名、職員9名)が参加して千葉県の生き物について情報交換しました。

今回はセンター職員による3件の情報提供と、調査団員4名から観察事例を紹介いただきました。また、調査団員からの投稿による写真コンテストの結果発表、受賞作品に合わせた詩の朗読も行いました。

1 生物多様性センターからの情報提供

- ・「千葉県の淡水魚類」 佐藤哲也
- ・「千葉県の外来の水生植物」 下稲葉さやか
- ・「生命のにぎわい調査団の15年」 加賀山翔一
県内の生息する淡水魚類の特徴や近年確認されている外来魚類について解説しました。

次に、県内で確認されている外来の水生植物及び令和6年度に実施したナガエツルノゲイトウの分布調査の結果について説明しました。最後に、これまで団員に報告いただいた調査報告のデータの現状と利用方法について紹介しました。

2 調査団員からの情報提供・観察事例紹介

- ・「船橋中心部の海老川汽水域 魚類・鳥類観察報告」 高見 等
- ・「ナガエツルノゲイトウ駆除について」 城之内健一
- ・「谷津の希少種、水辺の昆虫」 吉木 保
- ・「長田谷津(市川市大町自然観察園)における湿地保全の取組」 熊谷 宏尚

団員からは、県内の都市部や谷津における様々な成果や活動の現状に加え、外来水生植物の駆除活動について発表いただきました。

3 令和6年度写真コンテストの審査発表

フォーラム参加者の投票により、応募31作品から最優秀賞と優秀賞を決定しました。これらの作品は、センターの年報の表紙などに使わせていただきます。また、受賞作品には、当センター職員であり、詩人でもある大島健夫が、受賞作品に詩を添え、1番のお気に入り写真に「大島賞」を捧げました。応募作品31点は、トピックス展「生命のにぎわい」写真展として、3月11日(火)～5月6日(火・休)の期間、中央博物館で展示され、9,719人にご来場いただきました。(佐藤 哲也 千葉県生物多様性センター)



写真コンテスト最優秀賞 2階建てコチドリ(千葉 公)

みんなで作ろう! ちば外来水生植物マップ

○外来水生植物の問題

ナガエツルノゲイトウ等の外来水生植物は、水路、河川、ため池、水田等に生育し、環境条件によっては爆発的に繁茂するため、水路の通水障害や農業被害、水質悪化、景観の悪化などを引き起こします。これらの被害を防ぐには、速やかな対策が必要ですが、そのためには正確な分布情報が不可欠です。そこで、より多くの情報を得るためにスマートフォンアプリを利用して皆様からの分布情報を広く募ります。



繁茂し水面を広く覆ったナガエツルノゲイトウ

○アプリを使用した調査方法

今回はスマートフォンアプリの「Biome(バイオーム)」を利用します。このアプリは、生物の名前判定AIが搭載されており、撮影した写真の生物種の候補が表示されるため、専門知識がなくても種を調べることができます。調査では、アプリを通して写真を投稿していただきます。その際、写真に付属する撮影地や撮影日などの情報も、あわせて送れる仕組みになっています。なお、アプリの使用に個人情報の登録は不要です。

今回はアプリのクエスト「みんなで作ろう! ちば外来水生植物マップ」を令和7年7月1日(火)～11月

14日（金）に開催します。クエストでは千葉県内で外来水生植物を3種探して撮影&投稿するメインミッションを設定します。また、昨夏のナガエツルノゲイトウの分布調査により分けた、エリア別にエクストラミッションも設定します。ぜひすべてのミッションの達成を目指してみてください。皆様の投稿により、県内の最新の外来水生植物の分布情報が明らかにできるかもしれません。アプリを使用したクエストへの参加をお待ちしております。

(桐澤 凜 千葉県生物多様性センター)

カミツキガメ防除実施計画を改定しました

千葉県では、印旛沼水系を中心に定着、繁殖しているカミツキガメの個体群が確認されています。生息数が増加した場合、生態系への影響や、人の身体への影響等のおそれがあることから、平成19年に「千葉県におけるカミツキガメ防除実施計画」(以下計画)を策定し、計画的に防除を行っています。

計画は、状況に合わせ、これまでに計4回の改定を行ってきました。今回は、令和5年度に実施した個体数推定の結果を踏まえ、防除事業の結果、及び課題等について検証を行いました。検証には、外来生物防除の知見を有する専門家等からなる「カミツキガメ防除検討会」を設置し、計3回の議論を経て、令和7年3月に計画の改定を行いました。

今回の改定では、これまでの取組と生息状況の推移についてのほか、捕獲時期の検討、効果的な捕獲方法の推進、捕獲が進捗した地区における防除の方針等、捕獲強化に向けた方策について明記しました。

また、年間の捕獲目標としては、これまでは、「カミツキガメの生息数を減少させるために必要な捕獲数」を設定していましたが、生息数の減少傾向が続いていることが明らかになったことから、防除をより進めるため、「今後5年間でカミツキガメの生息数を半減させるために必要な捕獲数」を目標として設定しました。詳細は生物多様性センターのホームページをご覧ください。

今後は、新たな計画に基づき、カミツキガメの生息数減少・そして最終的な目標である県内からの根絶に向けて、引き続き防除に取組んでまいります。

(今津 健志 千葉県生物多様性センター)

千葉県の希少種

アカハライモリ

(千葉県レッドリスト・最重要保護生物A)



千葉県には、カエルの仲間ではない両生類は2種類しかいません。トウキョウサンショウウオと、このアカハライモリです。水田や池、小川などに、背中が黒くてお腹が赤い、4本の足と長い尾を持つ10cm前後の生き物がいたら、それはすなわちアカハライモリというわけです。

アカハライモリは、様々な面白い特徴を有しています。交尾の際にはフェロモンを分泌して異性を誘い、皮膚にはフグ毒と同じ成分の自衛用の毒を持ち、手足どころか心臓や脊椎がある程度、傷ついても再生する能力があり、加えてとても長命です。千葉県立中央博物館で飼育されているアカハライモリの中には、1989年の開館当初から生きているものがあるほどです。そんなアカハライモリは、かつては千葉県全域に多数が生息していました。ほんの数十年前までは、「イモリしか釣れない池」などというものがあちこちに存在していたのを覚えていらっしゃる方もいることと思います。しかし、農薬による汚染や外来種の影響、開発に伴う生息域の分断などの要因で年々減少しており、とりわけ北総地域では、孤立した生息地が点在するだけの、文字通り絶滅寸前の状態です。現在、アカハライモリは環境省のレッドリストで「NT（準絶滅危惧）」、千葉県のレッドリストでは「A（最重要保護生物）」にランクされています。

身近な里山の自然に暮らす不思議に満ちた生き物・アカハライモリ。是非、多くの皆様に関心を持っていただきたいと思っています。そのことが、アカハライモリが生きる環境の保全にもつながってゆきます。

(大島 健夫 千葉県生物多様性センター)



生物多様性ちばニュースレター No.86 令和7年6月30日発行

編集・発行

千葉県生物多様性センター（環境生活部自然保護課）

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2（千葉県立中央博物館内）

TEL 043(265)3601 FAX 043(265)3615 URL <https://www.bdcchiba.jp>

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。